

首都機能移転県民フォーラム（南那須地区）開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・対象地域南那須地区（南那須町、烏山町、馬頭町、小川町）
- ・平成9年4月26日（日）午後1時30分～午後4時20分
- ・烏山町「ひのきや」

2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等の代表）10名
- ・主催者側（県民会議幹事、事務局）12名
- ・県議会議員（地元選出）2名
- ・随行、市町村職員、一般等170名

3. 意見の概要

- 意義などに関する意見 -

- 栃木県那須地区の工業生産分布は物づくり産業、製造部門関係企業が90%以上であり、人口問題1つとらえても60万人という人の流れとともに、新たな情報メディア産業の流入が既存産業へ大きなプラス要素をもたらすものと考えている。
- 一極集中の是正ということであれば、首都機能移転ではなく多極分散型国土の形成ではないのか。
- 専業農家の立場として、首都機能が那須地域へ移転することについては様々な問題があると思うが、郷土栃木県に首都が来る、その候補地となることは素晴らしいことだと考えている。
- 地域の活性化を促進し、子供たちがこの地に永住できる環境づくりを担う親の立場としては、国会の移転に期待せざるを得ない状況である。
- 自然環境豊かなこの地域を荒らすことがないような緩やかな移転が実現されれば、地域の活性化と教育振興に拍車がかかるのではないかと考えている。期待を込めて首都機能移転を見守りたい。

- 課題に関する意見 -

- 南那須4町は圏域から外れるのではないかとということで、住民意識も希薄な感じがするが、その分住民の賛同を得ていくことが大切であると考えている。
- 移転用地に農地がかかってしまう農業者には、八溝地域とか遊休地のあるところに代替農地の手当てを考えてもらわないと同意は難しいのでは。
- 環境問題について主張される方の意見は理解することが出来るが、今の日本の環境を守る技術を駆使すれば、現状のままで開発されていくよりは、はるかに環境が維持されるものと考えている。
- 交通アクセス問題についても、那須地域（中心地区）はパンフ等でイメージできるが、その周辺地域については具体が見えてこない状況である。その辺のところを見せながらこの問題を進めてもらいたい。
- 那須地区から離れているせいか身近な問題として受け止めている人が少ないのが実情である。
- 広大な那須の自然破壊、60万人に対する水資源の確保、ビルが建ち並ぶ東京の再現等の不安がある。
- 首都機能移転問題は、まずなぜ必要なのか、国民全体に何をもたらすのか、メリット、デメリットは何なのかなど国民全体での議論が必要である。
- この問題に対する県のすすめ方についても、那須地域の住民の意見が十分に反映されているのか大変

疑問である。

- 首都機能移転とは、地方分権や行革を促すイベント的存在であってはならない、まず行革があってその結果を議論し、移転の是非を問う必要がある。
- 移転によって起こる諸問題として、財政問題、水問題のほか緑の消失、農業の衰退、ゴミ問題、水源汚染等が考えられる。
- 移転先地の土地利用計画によって開発される所、されない所をはっきりと区分することによって、現状より自然が保全されると考えている。
- 教育問題、高齢化問題等を考えてもそれらに対応して行くためには、今後ますます地域を発展させる必要がある。
- 首都機能が移転すれば経済性、利便性が非常に高まる、あるいはルネッサンス生まれるというような考え方だけでこの問題を論じるほど、この問題は単純ではないと思っている。
- 首都機能がこの地域に進出した場合、既存の町の得るものも大きいかもしれないが、それに伴って失うものも大きいんだということも考える必要がある。国家的なプロジェクトは一度動きだすとこんなはずじゃなかったと思っても止まらないものである。
- 那珂川は我々の生活の原点である。那珂川によって流域の我々が生きてきた、これからも生き続けなければならない運命共同体である。そう考えると那珂川の水が少なくなるのを喜ぶ人は恐らくいないであろうと考えている。
- 首都機能の「機能」とは何を指し、どの程度の規模なのかを明確にしてもらえれば、もっと身近な問題としてとらえられるのではないかと。
- 国会等の「等」は何を意味するのか。等というのは曲者で最初は国会とちょっとというニュアンスが蓋を開けると、ドッと押し寄せる何かを暗示させるのではないかと不安を感じている。
- 那珂川水系の水をいろいろな形で使用している私たちにとっては、他の水系から1.3tプラスされると言われても危惧する部分は大きい。利根川の北ということで説得するのであれば、移転の恩恵を授かる東日本地域の中で連携して、水の安定供給を図る方策等についても検討してもらいたい。
- 地域性を重視した移転計画を策定した上で、わが子たちの住みやすい地域社会基盤の整理ができる環境づくりを進めることも親としての責務であると考えている。

-要望に関する意見-

- 県としては、こういう大きなテーマに対して、しっかりとした調査・研究のもとに推進していくことを願っている。
- 農業経営者としては、首都機能移転と合わせた形でその地域の今後の農業展開を一緒に考えてもらいたい。
- 那須は適地としての条件が揃っているので、栃木県の発展のため、未来の子供たちのためにより良い環境が整備されることを期待している。
- 3年前から新井明氏を講師に招いたりして、移転問題の必要性、重要性等について勉強してきたが、首都が移転するならば那須しかないと考えている。
- 那須という候補地を広く知らせるために栃木県北のお祭り、那須地域を一体とした合同のお祭りを進めていくことによって、将来は世界から人を呼べるようにしたい、そんな夢を持っている一人である。
- 世界に誇れる観光行政型まちづくりを生物と人間の共存を基本に進めてもらいたい。
- 行政改革とか財政改革とか大変難しい国全体の視点からの議論や直接の利害に絡んだ発言ばかりが目立っているが、家庭を育て、守るという女性の立場から、ぜひともこの21世紀に向けての大事業を実現してもらいたい。

- せっかくのチャンスである、何もかもは無理かもしれないが、せめて国会だけでも移転して、国全体がバランスよく発展するようにしてもらいたい。
- 広く県民合意を求めるのであれば、一般には使われないような業界用語は避けて、普通のわかりやすい言葉で説明してもらいたい。

-意見交換における主な意見(要旨)-

- 先頃オーストラリアのキャンベラを現地調査してきたが、有力候補地と言われている本県は、こういう調査に関しては一歩も二歩も遅れているという認識を持った。
- 各県とも、利根川の東に来るか、あるいは西に行くのか、それによって21世紀の地域、地方自治、あるいは県というもののあり方が大きく左右される。そんな思いでこの問題に取り組んでいる。
- 様々な課題はあるが、それらをクリアして、地域の将来をどう考えていけばよいか。我々の時代は次の時代に対して、地域の悩みを何とかして解消する責任があると考えている。
- 地域住民に大きな影響を及ぼす移転問題は、「誘致ありき」ではなく住民の議論を尽くした上で、行政が青写真をつくるという手順で進めてもらいたい。
- 水問題の重要性は十分に認識しているが、現在のでき得る技術を駆使して、ワシントンやキャンベラにも負けない国際都市をつくっていくことも、子孫に残す我々の務めであると思っている。
- 水問題も大切であると思うが、那須郡東部地域は別の面で首都機能移転にかける期待が大きいと思う。
- 最初から推進ではなく、ゼロから始まってもらいたい。問題が解決されなければ、建設はだめなんだという前提で話し合いをしてもらいたい。
- すばらしい生活環境などを首都機能移転にあわせて、この八溝地域に、また栃木県に創造してもらいたいと思う。
- この問題は地元住民の理解がないと実現の方向に向かわないのではないか。この点を十分に踏まえ、県民フォーラムなどの場を多く設けてもらいたい。
- 新首都は、自然や環境との関係も踏まえ、地球規模で21世紀にふさわしいものになるよう我々政治家の立場で取り組んでいきたい。
- 首都機能移転によって土地の利用計画が広い範囲でなされるならば、今の環境より非常に良くなるのではないか。